



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アルファコート関内	階数	地上11F
建設地	横浜市南区永楽町二丁目23番11	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	80 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年4月 予定	評価の実施日	2025年10月8日
敷地面積	475 m ²	作成者	森田建築設計室
建築面積	247 m ²	確認日	2025年10月8日
延床面積	2,537 m ²	確認者	森田建築設計室

外観パース等(任意)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.6 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★ 環境品質 G 環境負荷 L	 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q のスコア = 2.4		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.5 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.3
LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.7		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.9 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.5 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合 外壁を周囲の街並みに配慮した色彩計画とし、近隣環境への配慮を行った。		
その他 0		
Q1 室内環境 住戸部の開口部に遮音等級T-2を採用するなど、快適な室内空間となるように計画した。	Q2 サービス性能 0	Q3 室外環境(敷地内) 0
LR1 エネルギー 0	LR2 資源・マテリアル LGS工法により躯体と仕上材が容易に分別可能な構造とし、部材の再利用の工場を図った。	LR3 敷地外環境 0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<集合住宅>

受付日 2025年10月14日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)アルファコート関内

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

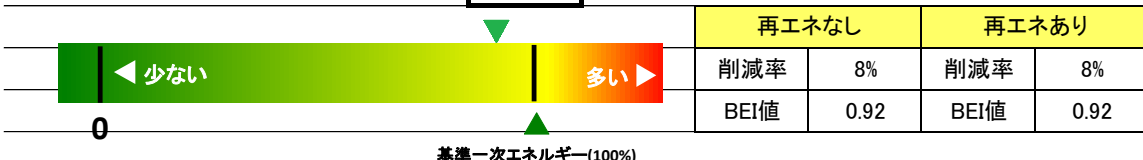
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 8 %削減



基準一次エネルギー(100%)

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

3

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

1

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)アルファコート関内

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	2.4
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.0
1 音環境				3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	-
1.2 遮音				3.0	0.50	3.6	0.50	-
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	5.0	0.30	-
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音				3.0	-	3.0	-	-
2 温熱環境				3.0	0.35	3.1	1.00	3.1
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.3	0.50	-
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.63	3.0	0.63	-
2 外皮性能		快適・働きやすさ	健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.38	4.0	0.38	-
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	-	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.20	3.0	0.20	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30	3.0	0.30	-
3 光・視環境				3.0	0.25	3.3	1.00	3.2
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.30	-
1 昼光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.60	3.0	0.50	-
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	0.30	-
3 昼光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	4.0	0.30	-
1 昼光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	4.0	1.00	-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	3.0	0.15	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	3.0	0.25	-
4 空気質環境				3.0	0.25	2.7	1.00	2.8
4.1 発生源対策				3.0	0.60	3.0	0.63	-
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	1.00	3.0	1.00	-
4.2 換気				3.0	0.40	2.3	0.38	-
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	1.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	-	-	-	-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	1.0	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.5
1 機能性				2.1	0.40	2.6	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	-
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	1.00	-
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	-	-	-	-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理				2.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.6	0.30	-	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				1.4	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	1.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.5	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり				-	-	2.0	0.50	-
1 階高のゆとり				3.0	-	2.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				3.0	-	2.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	3.0	0.50	-

3.3	設備の更新性			3.0	1.00				
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	1.3	
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-	1.0	
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	1.0	0.40	-	-	1.0	
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0	
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.7	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.9	
1	建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	3.0	0.20	-	3.0	
2	自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	3.0	
3	設備システムの高効率化				2.8	0.50	-	2.8	
	集合住宅以外の評価		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	2.8	1.00	-	-	
4	効率的運用				3.0	0.20	-	3.0	
	集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	
	集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.5	
1	水資源保護				3.0	0.20	-	3.0	
	1.1	節水			3.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-	2.5	
	2.1	材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避				2.3	0.20	-	2.3	
	3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
	1	消火剤			-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)			2.0	1.00	-	-	
	3	冷媒			-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7	
1	地球温暖化への配慮				3.1	0.33	-	3.1	
2	地域環境への配慮				2.3	0.33	-	2.3	
	2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮				2.8	0.33	-	2.8	
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音			3.0	1.00	-	-	
	2	振動			-	-	-	-	
	3	悪臭			-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	
上記以外の重点項目					-	-	-	-	
<事務所用途>					-	-	-	-	
知的生産性向上への取組				快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-
<住宅用途>					-	-	-	-	
健康と安心					-	-	-	-	
	1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	
	2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	
	3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-	
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	4.0	-	-	-	